ハットリー！っていう、「ローカルライフファンクラブ」を始めました。

ピーコック®

Magazine for HATTORI City Boys & Girls

2022 Issue.14

地元で
楽しく
暮らしたい。

ピーコックマガジン　2022年10月号（隔月発行）
発行／喫茶ピーコック　大阪府豊中市服部元町1-1-6　TEL／06-6864-0317　デザイン／田口工房 TAGUCHI design STUDIO：今田美弥子

くちびるに珈琲を。

～店主が綴る、エッセイのようなもの～

the sun in mind,the coffee to lips.

※出典：服部天神駅前広場整備ワークショップレポートVol.4

ライフ・イズ・ターミナル

実はあまり知られていないんですが
「服部天神駅前広場整備事業」っていうのがあって
令和8年くらいには写真のような感じになるんですよね
計画自体はずいぶん前に決定していて
いよいよここまできたかという感じなんだけど

もちろん地元でも賛否両論あって
古き良き服部の風景を残したい反面
台風や地震や豪雨に耐えうる都市機能を整備する必要もあるわけです

でも、こういうどこにでもありそうな
「味気ない一辺倒な景観」だからといって
地元に対する愛着や人の繋がりが失われるのかというと
そうは思わないんですね

それにどんな色を付けて何を描くのかって
それは都市整備ではできなくて
そこはやっぱり、地元の人たちの出番であり役目だなと僕は思う

どんな町にしたいかって、どんな暮らしをしたいかっていうこと
暮らしこそ人生だと思うので、どうせなら夢を描きたい

なんせ僕は、寝る時間よりも駅前にいる時間のほうが長い人生なんです

僕の好きな言葉

ヒマラヤほどの消しゴムひとつ楽しい事をたくさんしたい
ミサイルほどのペンを片手におもしろい事をたくさんしたい

—「1000のバイオリン」より　**ザ・ブルーハーツ**

本と音とお店のはなし。

今月の一冊

大坊珈琲店

大坊 勝次

2013年に惜しまれつつ閉店した喫茶店。静かに流れるジャズに苦くて深い珈琲と大坊さんの佇まい。

本書の一節で「喫茶店は誰もが何者でもなく鎧を脱ぐことができる場所」だと仰っていて、ピーコックもそうありたいと思っています。

社長も学生も主婦も「偶然居合わせた人」ってだけで同じ時間を過ごしたい。

今月の一曲

楽しく暮らそう

思い出野郎Aチーム

ハットリー！のキャッチコピー「地元で楽しく暮らしたい」の元ネタになったタイトル。

激渋ボーカルとホーン8人組のソウルバンド、通称「OYAT」。「たまに歌って、時々踊って、絶えない悲しみを笑い飛ばそう」なんてほんと最高。

ド派手な自己実現もいいけど、揺るぎない日常の愉しみをしみじみ感じたいお年頃。

僕らの町のお店

鰻と立ち飲み ～つれづれ～

豊中市服部豊町1丁目6-1 リップル服部天神ビル1F
11:30～13:30／18:00～23:00
今のところ、なし

友達の紹介で知り合った現役阪大生、陣内くんのお店。お昼は本格うな重、晩は鰻のアレンジメニューと立ち飲みで学生中心に運営されています。

オープン直後に巨大台風に見舞われながらも夢に向かって真摯に突き進む姿は一生懸命でめちゃくちゃカッコいい。喫茶ピーコックからも歩いて1分ほどなのでご近所ルーティンにぜひ。

最新情報は公式instagramからどうぞ。

上芝英司｜1979年服部生まれ、喫茶ピーコック3代目店主。喫茶と文筆に勤しむA型乙女座ヒゲメガネ。企画や作文、図画工作が得意。

PEACOCK64　一生懸命を楽しむ
https://peacock64.com
PEACOCK64 服部

for HATTORI City Boys & Girls

地元で楽しく暮らしたい

「ハットリー！」っていうローカルライフファンクラブを始めたんですよ。わかりやすく言うと「自治会」のようなものなんです。

よく最近は「共助・自治・コミュニティ」なんかが地域づくりのテーマとして出ること多いんだけど、ようは「ご近所さんと協力してよろしく豊かに暮らしてね！」みたいなこと。

これまでは中央統治型の国や自治体単位で組織されていたものが「地方」になり、さらに「地域」になっていく。村や島みたいな「地縁」で生活していくことになりそうです。

web3でも言われている「自律分散型組織」の実生活版ですよね。僕らはそれを「ネオ自治会」と定義して、ローカルライフファンクラブと名乗っているわけ。

でもよくよく考えてみると、田舎へ行けば今でも村や島単位での文化や生活があるし、大昔なんてそもそも藩が統率していたわけですよね。

情報伝達や物流が整い移動も自由になってくると、個々に分散して仕事をするよりも会社みたいなところに集合して団体芸でもって生産したほうが効率よくなって、結果として職住分離（働く場所と住む場所が離れている）が進み地縁が崩壊していく。つまり、ご近所さんとの付き合いが希薄になっているっていうのが現在の都市部で起こっていることなんです。

でも、コロナがあって移動が制限された生活が続いた時に多くの人が気付いたわけです。「あれ、やっぱり物理的な人との距離って大事やぞ！」って。

近所に友達がいる、遊ぶところがある、行きつけの店がある、何かあった時に頼り助け合えるっていう、ある種「本来の生活基盤」みたいなものを豊かにしていくことが必要になってくると思うんですよね。これから災害も増えてくるだろうし、インフラが崩壊した時なんて周りと一緒になっていかなきゃいけないんで。

もちろん今でも自治会や商店会や振興会、神社や消防や公民館とか既存の仕組みはたくさんあります。ハットリー！は、そういった様々な機能や役割を持った地域組織を「横で繋ぐ」ことをしていきたいなと思っていて。イベントやお祭りもそれの一端を担う大事な行事だけど、年に数回の「ハレの日」だけじゃなく、普通に過ぎていく「ケの日」にこそその仕組みは必要なんじゃないかって思うんです。楽しい1日を作るのと同じくらい、楽しくない1日を減らしたい！と思っています。

そのための仕組みとして「LINE公式アカウント」を作りました。○月○日○時にここへ集合！っていうものではなく、うっすら緩く繋がっている関係性、つまりは「ファンクラブ」のようなものなんです。

服部にゆかりある人なら誰でも参加できるネオ自治会。まだまだスタートしたばかりなんですが、地元の日々の暮らしが楽しく豊かになればいいなと思っています。

ぜひぜひ、QRコードからお友達になってくださいな。

LINE 公式アカウント